

湯恩佳「陽明學說与孔儒思想」

張新民「探尋真實的存在与存在的真實」

——王陽明心學視域下的靜定・立誠与格心」

徐明德「王陽明对中国心性哲學的詮釋」

高予遠「王陽明良知思想对“四書”的繼承」

周松柏「試析陽明心學反叛傳統的主体自覺」

程志華「建構主体的價值取向——論陽明心學的啓蒙思想」

劉宗碧「陽明學与日本明治維新運動」

金世貞「全球性生命危機与陽明學的作用」

劉宗棠「仏教禪學与陽明心學」

葉遠厚「儒家思想自得維度詮釋」

夏之奎「朱熹理學与陽明心學同異之弁」

李堯耀「陽明心學与西方現代理性」

張克偉「記王陽明父子夢兆二三事」

余懷彥「王陽明与席書」

王煜「王守仁对潮州状元林大欽的感染」

黃卓越「張居正与王學關係之考弁」

錢明「関于王陽明若干史跡的調查与考弁」

李友學「黔中王門是陽明後學的重要學派」

李迎喜「黔中王門系統考」

王路平「西部大開發与“黔中三寶”研究」

諸煥燦「王陽明貴州教育活動与西部開發」

洪禹欽「由王陽明謫居詩看他的童場生活」

陳新国「誦王陽明《居夷詩》」

熊宗仁「陽明文化与修文県形象品牌的打造」

楊炯鑫・肖進原「陽明文化与修文旅遊美學」

竜平久「論貴州陽明文化圈旅遊開發的人文資源價值」

盧祥運「貴州陽明遺景的特色」

李平「談陽明文化旅遊資源開發」

張清河「王陽明貶謫童場漫話」

著者は貴州大学、貴州師範大学や貴陽学院などの教授、また地元の社会科学院の研究員等地元の人が大半である。しかし陽明の出身地である浙江省（杭州）の社会科学院や余姚の人等、外国からは、韓国から金世貞（忠南大学）、洪禹欽（嶺南大学）がいる。

本書は、次の二書のをとを以て出版されたものである。

○《王學之路》編輯委員會編『王學之路』

——中国貴陽99陽明文化節暨王陽明學術討論會論文集——

二〇〇〇年一二月、貴州民族出版社刊。A5版、494頁。

○『王學之思』（1999年8月刊）

——紀念王陽明“童場悟道”四九〇周年論文集——

一九九九年八月、貴州民族出版社刊。

貴陽的王陽明研究会及び陽明文化節・王陽明學術討論會等については、『王學之路』の附録にある李友學の「中国貴陽99陽明文化節暨王陽明學術討論會會議紀要」、王曉昕の「貴陽王陽明研究会第一屆理事會工作報告」に詳しい。

○修文県地方志弁公室 編『王陽明在龍場』

二〇〇二年九月、貴州煤田彩印廠印刷。A5版、212頁。

『修文県志』を新たに編纂した修文県地方志弁公室が、王陽明が竜場（現在の修文県）に貶謫された時に關する読み物として作ったもの。

竜場に貶謫された時の年譜から始まり、竜場での悟り、辺地での講学した書院や教育について、またそこで書いた文や詩、そこで書いた書法（写真）、建てられた建造物等の遺跡の解説書である。

○楊徳俊 編撰、雷華熙 審校 『千古龍岡漫有名一聖地史存』

二〇〇二年九月、清鎮市盤江印刷廠 印刷。A5版、308頁。

前掲書と同じように、竜場における王陽明の詩文の載録と遺跡の解説の後に、後の人の王陽明や竜場に關する詩文が集められている。

日本人のものとして、古くは、三島毅（号中洲）の「竜岡觀月」の詩があり、他に岡田武彦の「竜場陽明銅像落成記」「王文成公像贊」「祭陽明王天子文」「雲貴秀地」「竜場悟道」志賀一朗の「王陽明大徹大悟的「竜場」」「竜場」「回顧第二次的故地重游」が収められている。また岡田、志賀、矢崎勝彦氏等の貴州の王陽明國際學術討論会の賀詞や献辞も収められている。

○朱五義編注 『修文陽明洞詩文集注』

一九九九年九月、盤江印刷廠印刷。A5版、172頁。

本書が、前掲の二書のもとになっているようなもので、王陽明の竜場に關する詩文、その後の人の手になる詩文が集められているが、注解がついているところが前掲書と異なる。

○袁仁宗 著 『王陽明』

一九九八年七月、貴州民族出版社刊。A5版、437頁。

本書は、歴史長編小説であつて、學術・研究書ではないが、王陽明の伝記長編小説が出ていたのであげておきたい。

\*次のものは、単行本でなく、學術誌（紀要）掲載のものであるが、陽明學研究の基本資料として紹介をしておきたい。

○水野 実・永富青地 著 『陽明先生遺言録』（一）～（五）

（『防衛大学校紀要』第70輯～第74輯（平成七～九年）

佐藤一斎が『伝習録欄外書』で指摘していた『陽明先生遺言録』を、都立中央図書館の「河田文庫」にある一斎本を底本として、東北大学所蔵の「狩野文庫本」と「全書本伝習録」、等との異同を明らかにして、訓読注釈をして、研究に資するよう公刊したものである。

これを完成したあと、研究者の要望に答えて、さらに現代語訳（現代語訳『陽明先生遺言録』（一）（二）（三）、『防衛大学校紀要』（84）（86）、前者の（一）～（三）の部分）も進められている。なお前者においては、（二）からは三沢三知夫氏が参加している。

○水野 実・永富青地 著 『陽明兵筈』の基礎的研究

（『人文社会科学研究』第41号～第45号、（平成13年～17年）

本書『陽明兵筈』の訓読と注釈がなされている。

○鄭仁在・黃俊傑編 『韓國江華陽明學研究論集』

二〇〇五年九月、国立台湾大学出版中心刊。A5版、562頁。

— 東亞文明研究叢書（50） —

本書は二〇〇四年一〇月一五日～一六日に行われた「江華陽明學派的定位与現代的意義」をテーマとする國際學術研討会において発